

福島から始める新しい銅電線リサイクルのかたち

くるりんこは【きずなループ事業】を推進します

3,11 を境に、私たちの価値観が大きく変化しています。中でも環境は重要なテーマとして考えられ、特にエコに対する意識とリサイクルに関する取組みは、国民一人一人にとって身近なものになりました。

これまで日本国内で利用されず輸出されてしまっていた廃電線を、仕事の不足に悩む障がい者施設の安定的な仕事にする【きずなループ事業】の仕組みはそうした中から生まれました。これによって、障がい者の方々の自立支援と、資源の国内リサイクルが促進される事が期待されます。

一般企業では事業採算性の確保が難しく、敬遠される廃電線リサイクルですが、銅は必要不可欠な資源のため「売れない」ということがないので、納期や時間の制約がありません。そのため自分たちのペースで仕事のできる障がい者施設の仕事として、優れた収入源となります。また、障がい者の方の中には類まれな集中力や、単調な作業にもめげない忍耐力をもった方々もおられ、廃電線リサイクルの電線剥離の仕事は、むしろ好ましい仕事ともいえるのです。



ぜひ【きずなループ事業】にご参加ください。

障がい者施設様

【きずなループ事業】にご興味を持たれた障がい者施設様、ぜひお気軽にご連絡ください。事務局の担当員が様々なご相談をさせていただきますので、安心して廃電線リサイクルを作業として導入していただくことができます。

一般企業様

【きずなループ事業】では、リサイクルする廃電線を提供していただける一般企業様を募集しております。詳細は窓口担当員が丁寧にご案内させていただきます。一般企業様の積極的な参加が、地域の福祉環境に明るい光をもたらしますので、ご検討のほどよろしくお願いいたします。

きずなループ事業について、さらに詳しくお知りになりたい方は、きずなループ事業公式ホームページ <http://kizunaloop.com/> で検索

私たちの地域で出た廃電線を私たちの地域の福祉環境の向上に役立て
私たちの大切な自然や地球にもやさしく配慮します

きずなループ事業は経済産業省平成25年度東日本大震災復興ソーシャルビジネス創出促進事業（ソーシャルビジネス新事業創出事業）採択事業です。



「この世界から少しでも悲しみを減らしたい」という願いから「くるりんこ」は生まれました。

NPO 法人くるりんこ 副理事長 福島健一

NPO 法人くるりんこの誕生には、2つのきっかけがありました。

ひとつめは、視察で訪れた中国で見た光景です。そこでは、日本国内でリサイクルするのに手間暇がかかるために、輸出された廃電線が、決して衛生的とは言えない環境の中で、無数の作業者の手によって選別・加工されていました。

ふたつめは、東日本大震災の後で被災地の障がい者施設の方々から聞いた「施設利用者にやってもらう仕事がない」という悲痛な声です。

そこで私たちはこの2つの悲しみを減らしたいという想いから、①障がい者施設にリサイクル機器を貸し出す。②今まで輸出されていた廃電線の再資源化作業を障がい者施設にやってもらい工賃を支払う。③作業の成果である資源物を地元の工場で使用してもらう、の3本柱からなる「きずなループ事業」を考え、これを実行するための団体として、2013年5月にNPO 法人くるりんこを設立したのです。



「くるりんこ」の名称は資源の循環をイメージした造語で、「くるり」と視点や発想を転換して新たな価値を創出し、地域の環境を最適化していきたいという願いが込められています。

さらにこの取組みを福島県内全域に拡大することで、私たちの地域で出た廃電線を、私たちの地域の福祉環境の向上に役立て、大切な自然や地球にも優しく配慮することにもなります。まさに産業の地産地消の仕組みでエコ活動と社会活動を推進するのが【きずなループ事業】です。

事業としての取組みのため、目標や目的はとてとても大きなものになりますが、小さいながら思わぬよろこびも生まれました。剥離した銅線を利用してのクラフト作品の制作です。

銅線を素材にして、ちょっとしたインテリアやアクセサリーに加工するのですが、指先で簡単に折り曲げたり、編んだり結んだりできるので、大人から子供まで工作のようにアートづくりが楽しめます。

CDのキラキラ感と銅線の落ち着いた輝きがマッチしたタオル掛けは趣味と実益を兼ねた作品になるし、風船や小動物の形に編んだ作品は、とてもおもしろく個性的なアクセサリーとして楽しめます。今後はもっと大作も生まれそうです。

障がい者の自立支援を推進する【きずなループ事業】にご期待ください。

福島熱血エコ通信

くるりんこ

No.01

発行：NPO 法人 くるりんこ

【本部事務所】〒966-0086 福島県喜多方市字西四ッ谷189番地
TEL:0241-21-9551 FAX:0241-21-9552
【郡山事務所】（きずなループ事業事務局）〒963-8061 福島県郡山市富久山町福原字宝田46-1
TEL:0120-536-672 FAX:024-953-6769
【ステップボード】（障がい者福祉サービス事業所）〒969-3537 福島県喜多方市塩川町四奈川字上川原2659番地
TEL:0241-23-7400 FAX:0241-23-7401



ヒロシ君の訪問日記

きずなループ事業に参加してくださっている障がい者施設様への訪問レポートです。
特定非営利活動法人 EARTHBOOK 結の郷さん(福島県郡山市)に遊びに行ってきました。

ここに通うと友達がいる だから家でのお話も増えた

ヒロシ：はい、カナちゃん、おみやげだよ。

カ ナ：わー！タマネギだ。ツヤツヤしてとってもおいしそうだね。お母さんにサラダつくってもらおう。だって、サラダ食べると美人になるっていつもお母さんが言ってるんだ。

ヒロシ：カナちゃんはとってもかわいいし美人だよ。

カ ナ：もっともっと美人になるんだ。このタマネギどうしたの？

ヒロシ：今日は特定非営利活動法人 EARTH BOOK の「結の郷」さんに遊びにいったんだよ。それでおみやげにいただいたんだよ。

カ ナ：そこ、やおやさんなの？

ヒロシ：そこはね「就労継続支援 A 型事業所」といって、障がいのある人たちが一緒に社会生活してるところだよ。僕も車イスがないと自由に行動できないから身体障がい者なんだけど、結の郷には知的な障がい者の人と精神障がいの人たちが通っているんだよ。

カ ナ：ん～、よくわかんない。

ヒロシ：そうだね。世の中にはいろんな理由で、人に会うのや話すのがとても苦手だったり、社会でみんなと一緒にリズムで生活することができない人たちがいるんだ。そんな人たちが頑張って生活できるように練習するのが「結の郷」のような施設なんだよ。

カ ナ：お野菜をつくるのもお勉強なの？

ヒロシ：そうだね。お勉強だけお仕事にもなるから、お給料ももらえるんだよ。

カ ナ：お野菜をつくるだけなの？

ヒロシ：いや、自分たちでできるお仕事は何でも引き受けるんだけど、あまり難しいお仕事はできないんだ。でも「結の郷」にはとってもすてきな仕事を任されている人がいるんだ。

カ ナ：お野菜でつくるの？

ヒロシ：そう。何だと思う？

カ ナ：え～とね、え～と……わかった！

ヒロシ：おー！

カ ナ：カボチャでね、はろういんのカボチャお化けをつくるんでしょう。私もつくりたい。

ヒロシ：楽しそうだね、実は「結の郷」のみんなの食事をつくるお仕事のお兄さんがいるんだよ。昔、料理のお仕事をしていたから、献立を考えてることから、施設のみんなの料理をつかって、あと片付けまできちんとこなすんだ。

カ ナ：わーすごーい。お母さんも見習って欲しい。

ヒロシ：そうなの？

カ ナ：だってね、だってね、お母さんったらね……

ヒロシ：カナちゃんのお母さんの料理もおいしいよ。この間ごちそうになったから知ってる。それにこの食事をつくるお兄さんの素敵なのは、その日の朝のお天気な

家に帰って
家族との会話も
増えたみたい

ほんの少しづつだけど
自立にチャレンジだね

★まさし君の名称は仮称です。

おい、まさし君
今、作業中なんだけど……

もう一人ぼっちじゃないんだ

どでみんなの料理を決めることなんだ。寒い日は温かいものを考えてつくるし、暑い日はソーメンとか食べやすいものをつくるんだよ。

カ ナ：私も食べたーい。

ヒロシ：それに採れた野菜でも、小さくて市場に出せないようなタマネギなんかも、工夫して使うんで施設の職員の人も喜んでるんだ。

カ ナ：それがもったいないの心だよ。モノを大切にするとて大事だって先生が言ってたよ。えらいね～。ところで、お野菜つくってる人とお料理のお兄さんの他の人は、どんなお仕事してるの？

ヒロシ：「結の郷」はね、お野菜をつかって売るのがみんなの仕事なんだ。外に出て自然の中で働くのが大好きなんだって。

カ ナ：雨が降ったらお外に出られないよ。そんな時はお部屋で宿題するの？

ヒロシ：宿題はないんだよ。それに雨でもお野菜の世話はできるからね。ただ、お野菜はお天気や季節でお仕事ができなくなることがあるんだ。冬なんかはお野菜が採れなくなるしね。だから室内でのお仕事も必要なんだよ。

カ ナ：ヒロシお兄ちゃんの……くるくる……？くるんこりん……？え～と……

ヒロシ：「くるりんこ」だよ。NPO 法人のね。

カ ナ：そうだ「くるりんこ」だ。そこでも冬のお仕事がなくなっちゃうの？そうしたらヒロシお兄ちゃんのお給料がなくなっちゃうの？

ヒロシ：大丈夫だよ。そのために「くるりんこ」では室内で作業ができる【銅線剥離エコビジネス】の仕事もしているからね。

カ ナ：【銅線剥離エコビジネス】？

ヒロシ：電気工事事業者さんなどからいただいた廃電線から銅線を取り出して、新しい銅製品をつくる仕事なんだよ。

カ ナ：それ知ってるよ。リサイクルって言うんでしょ。

ヒロシ：よく知ってるね。僕たちの「くるりんこ」は、この【銅線剥離エコビジネス】を他の障がい者施設でも手伝ってもらえるように頑張っているんだよ。

カ ナ：みんなと一緒にやるの？きっと楽しいよね。

ヒロシ：うん。この仕事はあまり難しくないし、「いつまで」とか「どれだけ」とかのきまりもないんだ。納期とかノルマがないって言葉で言うんだけどね。そこがいいんだよ。

カ ナ：じゃあ、いっぱい廃電線ってのが必要なんだね。

ヒロシ：もちろん。だからいろいろな電気工事事業者さんにもお願いしてるんだよ。おかげでどんどん集まってきてるから、多くの障がい者施設の人たちにもよるこんでもらうことができそうなんだ。

カ ナ：ヒロシお兄ちゃん、頑張ってたんだ。カッコいいな～！

ヒロシ：そう言われると元気がでるね。「結の郷」のみんなも頑張っているから、カナちゃんも応援してね。

カ ナ：うん。みんな元気になるってうれしいもんね。いっぱい応援するね。

